

ゴーヘッドズ 速報

Goaheads

第22号 平成23年7月8日

失策は失点に繋がる・・・

相手の上手さに完敗・・・

	1	2	3	4	5	6	7	R
S	1	4	1	2	1	1		10
G	2	0	0	0	0	0		2



7/8(日)今川公園園野球場にて、Victoria日曜リーグ@Snugs戦を戦った。今期のリーグは強豪チーム揃いなので、今日のチームはどんな上手さを持ったチームなのか、有る意味参考に出来る事は参考にしたい！という気持ちで今日のゲームに臨んだ。先発は達脇、初球を四球で出し、その後二盗を決められ、開始早々ピンチとなった。が、続く打者を空三振に斬り、一死、しかし、後続に内野安打で一死一・三塁、ここで後続にきっちり中犠飛を決められ、先制を許してしまった。しかし、その裏の攻撃、哲也が死球で出塁、深沢の投ゴロが空いて投手のFCを誘い、無死一・二塁、今度はこっちが得点チャンス、このチャンスの場面に、裕太が左越2ベースを放ち、哲也がホームインし同点、三塁を狙った深沢は連携でアウトになるも、依然一死二塁の得点チャンスは続く、ここで、5番の川越が左オーバーの2ベースを放ち、二塁から裕太を迎え入れ、逆転に成功した。しかし、今日の我がチームのいいところは、ここまでで、個々から先は、相手チームの上手さが光った。進塁させる時は、きっちり叩き、三塁に走者を置いての得点シーンにおいては、叩くか外野に運ぶか、その時の臨機は見習うべきものである。ただ見習うと一言で言っても、やはりこれは、キャリアの差だと思う。意外と打席では、軽く振って、ボールを運ぶ芸当は案外難しい。

ただ、そんな中で気をつければ、少しは結果が違っても、と思えた内容は、走者へのケアでは無いか、という事である。何らかの形で出塁を許した後、あっさり盗塁は、いつも二塁打を打たれているようなもの。だから、牽制は、投手の判断のみではなく、捕手からの指示、また、野手からの指示であったり、と走者へのケアをもう少し行えば、これ程の盗塁数にはならなかったような気がする。盗塁はチームの士気を上げ、盗塁死はチームの士気を下げるから・・・
ただ、ポジションが固定で無い事から、この辺の難しさは有るが、メンバーが臨機に他のポジションが出来るようになり、チームとしての考え方が定まれば、先ずは格好からでも入れると思う。これから区民大会も終盤を迎える。チームとして、悔いが残らないようにするには、各メンバーが普段から出来る事を確実に、それをチームとして機能させる事だろう！
そのためには、マリンでのアップは有効的に使い、連携等、しっかり出来れば、と思う。ただ、その前に、集合時間に遅れる事無くな！